

テーマ：人生会議（ACP）への関わり、多職種で連携して支援を行うには？

【第1回】令和8年1月21日 webミーティング

・人生会議（ACP）への関わりについて 等



様々な機会を通じて、どう生きていきたいか考えてもらう。日ごろからいざというときの準備、土台作りをしておく。

何気ない会話の中で、どのように生きてきたのか、ACPIにつながる種を拾い上げてチームに共有する。自分の意思を伝えられなくなったとき、材料になる情報を持ってもらえるといいと思う。

▶各々の職種で工夫をしながらACPを実施していました

【第2回】令和8年2月17日 対面会議

参加者：34名

①ミニ学習会「ACPに歯科が関わるとは」

中村 弘之 歯科医師（ナカムラ歯科医院）

- ・ACPに歯科が関わる意義
- ・東山梨地域の歯科連携について
- ・在宅療養での口腔衛生管理の意義、必要性 等

先生の体験等を交えながら、非常にわかりやすくご講義いただきました！

②グループディスカッション

ACPをどのように行っているか？

わたしの想いノートと一緒に書き、関係者と共有している

都度確認しているが、その時々で想いは変わるので、いつでも変わっていいと伝えている

ちょっとした会話の内容をチームで拾っていけばACPになる。パズルのピースを合わせていく感じ。

参加者職種：

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、訪問看護師、歯科衛生士、医療相談員、ケアマネジャー、訪問リハビリ、包括、県、峡東保健所、保健師、行政職員



ACPの普及が必要。誰でもACPや本人の意向はここを見ればわかるという仕組みをつくっていくべきではないか。



元気なときにどう生きていきたいかを考えてもらうと、それが軸になる。その軸を基に支援する側がその方の意思決定を支える。

参加者のご意見

3回目は懇親会を開催しました！

○甲州市は規模も大きくないため、関係者の密な連携が自然と取れていたがコロナを機に薄れてしまっていた。こういう機会でもまた元の甲州市に戻っていく。

○このような場が大事。

